

## 4. 定点把握対象感染症患者報告状況(月報)

### (1) 過去5年間の報告状況

疾患名	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
性器クラミジア感染症	172	147	133	239	277
性器ヘルペスウイルス感染症	93	83	106	229	280
尖圭コンジローマ	60	44	58	50	55
淋菌感染症	31	37	19	29	40
性感染症報告数 小計	356	311	316	547	652

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	439	338	350	326	337
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	23	13	11	27	14
薬剤耐性緑膿菌感染症	11	2	5	5	1
薬剤耐性アシネトバクター感染症*)		—	—	—	—
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	473	353	366	358	352

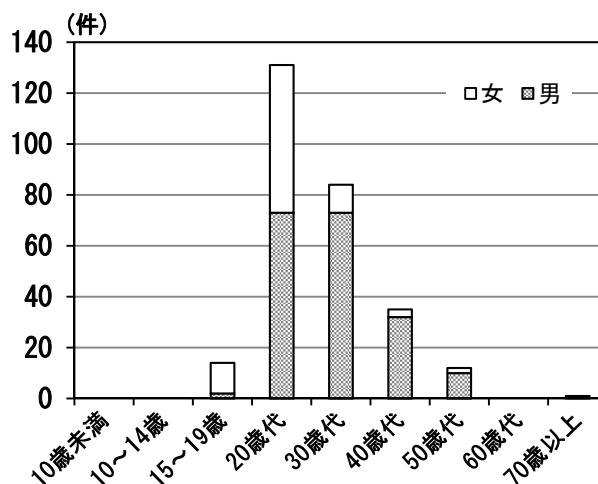
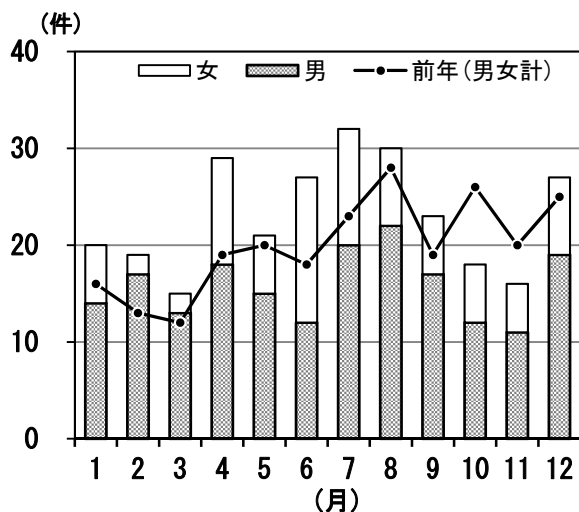
\*) 平成 26 年 9 月 19 日より全数把握疾患として追加された。

### (2) 性感染症患者報告状況

性感染症患者は、平成 25 年に定点病院が一部変更されたことより単純に比較できないものの、平成 24 年以前は毎年 300～400 件で推移していた総報告数が、平成 25 年は 547 件、本年は 652 件と 2 年続けて増加した。男女別では、男性 347 件（前年 298 件）、女性 305 件（前年 249 件）と男性、女性とも報告数は増加し、疾患別では前年同様、性器クラミジア感染症（42.5%）、性器ヘルペスウイルス感染症（42.9%）の割合が非常に多く、尖圭コンジローマ（8.4%）、淋菌感染症（6.1%）の順に多かった。

#### ① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

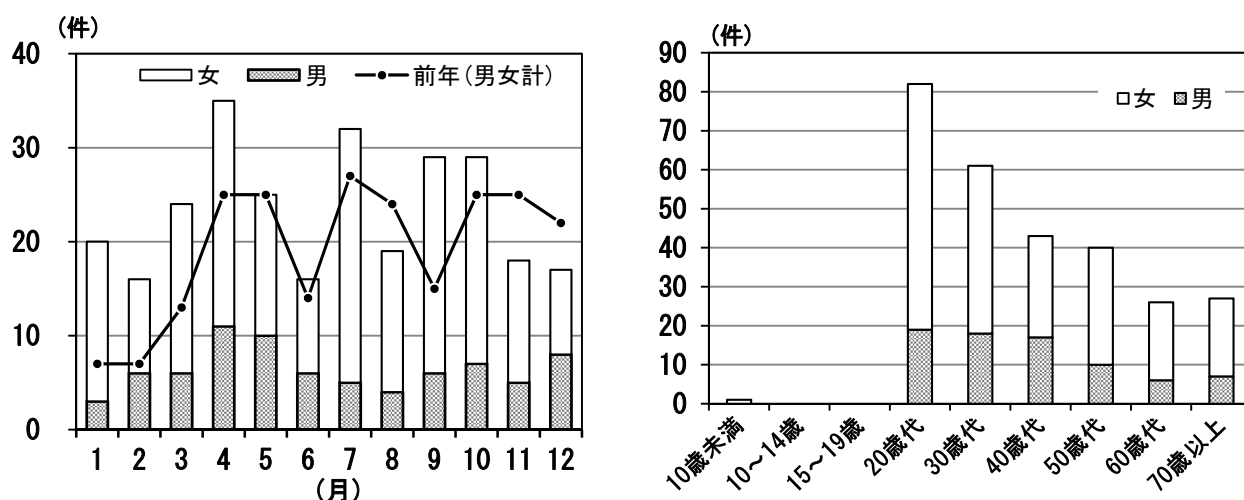


年間報告数は 277 件と前年(239 件)より増加し、月毎に変動は見られたものの季節的な特徴は示さず、年間を通じて報告された。男女別では男性 190 件(前年 174 件)、女性 87 件(前年 65 件)と男性が全体の約 7 割を占め、男女とも報告数は前年を上回った。

年齢別報告数は、10 歳代 5.1%、20 歳代 47.3%、30 歳代 30.3%、40 歳代 12.6%、50 歳代以上 4.7%と、20~40 歳代の報告が全体の 90.2%を占めた。

## ② 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は 280 件 (男性 77 件、女性 203 件) であり、前年 (229 件 : 男性 60 件、女性 169 件) から大きく増加し、年間 50~100 件で推移していた平成 24 年以前に比べ、約 3 倍の報告数となった。また性感染症全体では、男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約 7 割を占めるなど、女性の割合が他の疾患に比べ高かった。

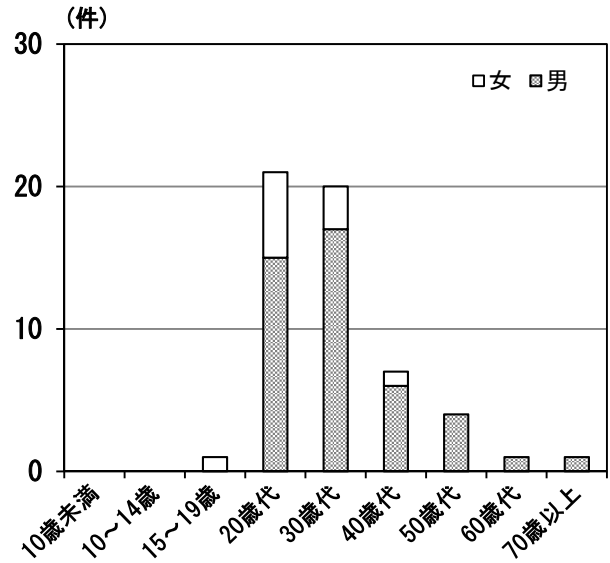
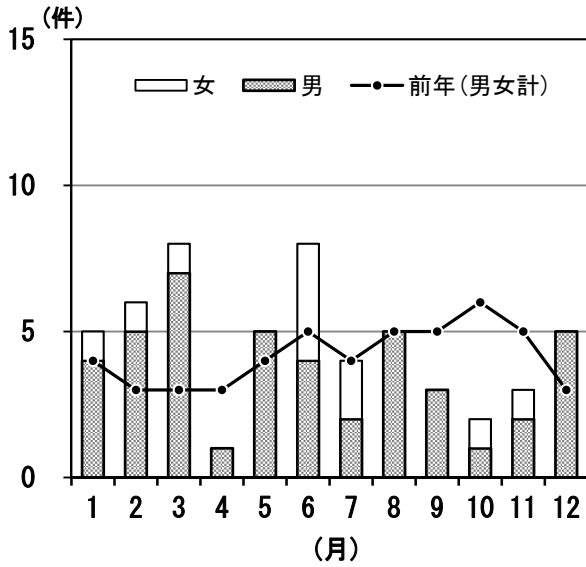
年齢別報告数は、10 歳未満 0.4%、20 歳代 29.3%、30 歳代 21.8%、40 歳代 15.4%、50 歳代 14.3%、60 歳代 9.3%、70 歳代以上 9.6%と、20 歳代、30 歳代でやや多かったものの、各年齢層から報告されていた。また、60 歳以上の高齢者からの報告数が 18.9%と他の性感染症と比較して多い傾向が見られたものの、潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

## ③ 尖圭コンジローマ

過去 5 年間の年間報告数は 40~60 件で推移し、本年も 55 件 (男性 44 件、女性 11 件) 報告され、性別では性器クラミジア同様に男性が多く約 8 割を占めた。

年齢別報告数は 10 歳代 1.8%、20 歳代 38.2%、30 歳代 36.4%、40 歳代 12.7%、50 歳代 7.3%、60 歳以上 3.6%と、他の年代に比べ 20 歳代、30 歳代からの報告が多く全体の約 75%を占めた。

### 尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

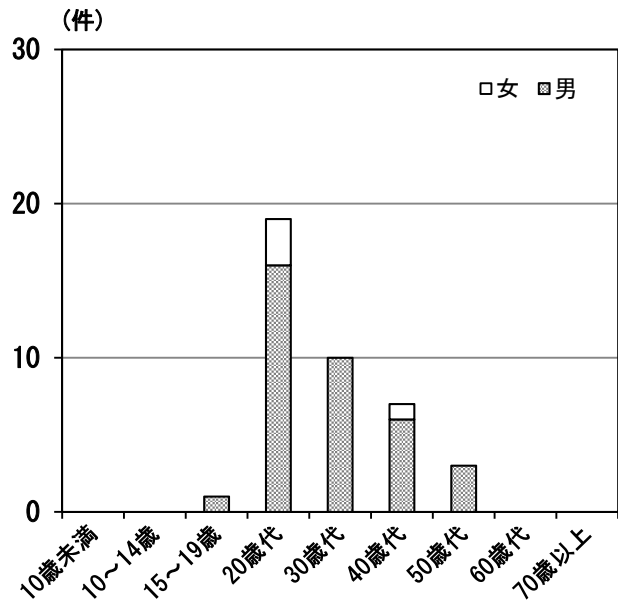
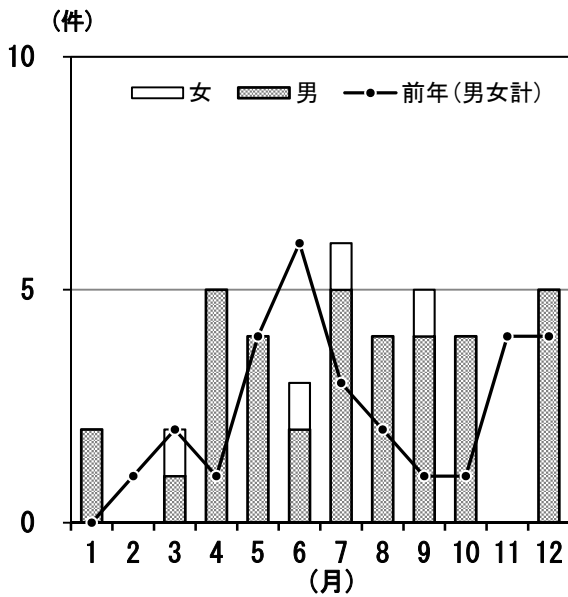


#### ④ 淋菌感染症

年間報告数は40件と前年(29件)からやや増加した。過去5年間では毎年20~40件の範囲で推移している。男女別では、男性36件、女性4件と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく、男性からの報告が多く約9割を占めた。

年齢別報告数は10歳代2.5%、20歳代47.5%、30歳代25.0%、40歳代17.5%、50歳代7.5%、60歳以上からの報告は無かった。20~40歳代からの報告が全体の約90%を占めた。

### 淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



### (3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

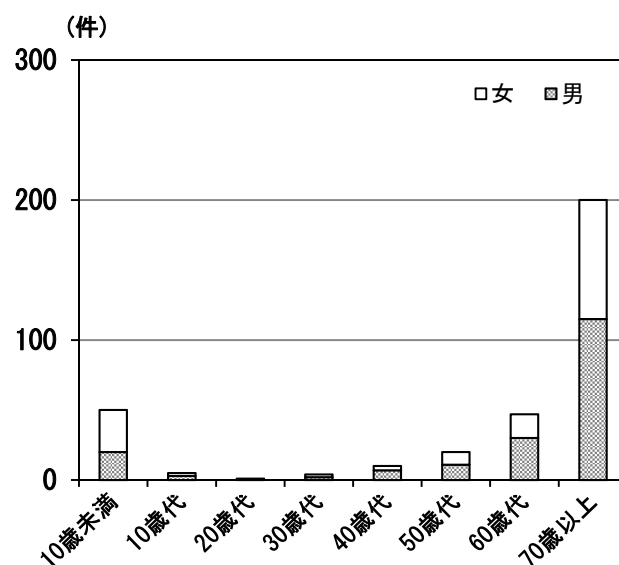
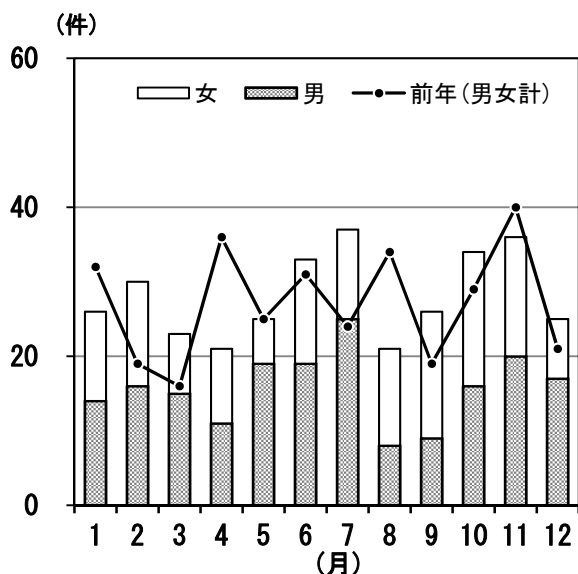
薬剤耐性菌感染症の総報告数は352件であり、前年(358件)とほぼ同数であった。過去5年間でも平成22年(473件)以外は350~400件で推移し、大きな変化は見られていない。疾患別の届出数において例年同様、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が大半(約96%)を占めた。

#### ① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間報告数は337件(男性189件、女性148件)であり、前年(326件)とほぼ同数の届出数となった。

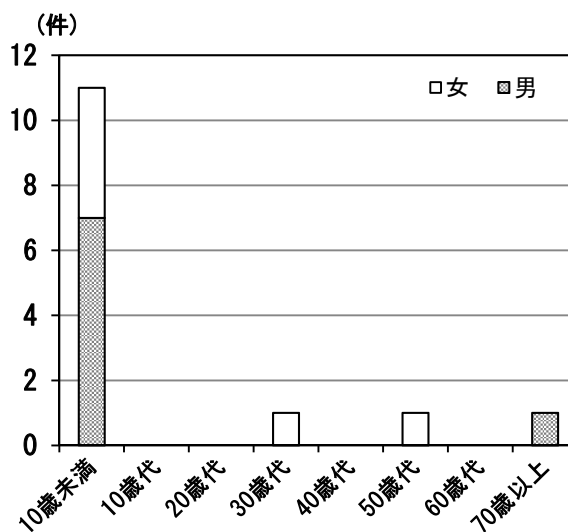
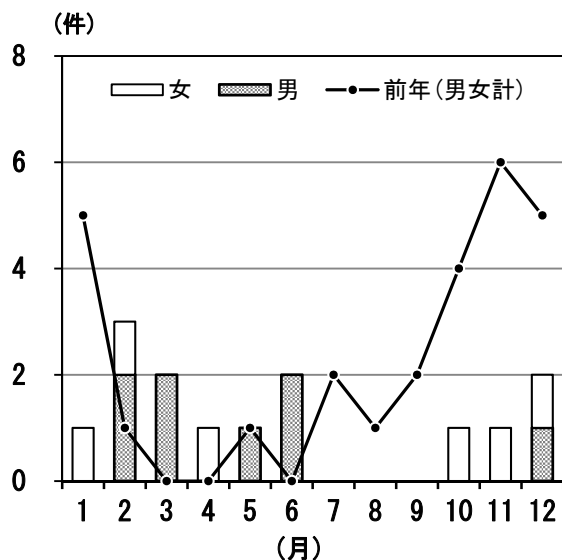
年齢別報告数においても、10歳未満14.8%、10歳代1.5%、20歳代0.3%、30歳代1.2%、40歳代3.0%、50歳代5.9%、60歳代13.9%、70歳以上59.3%と、前年同様に60歳以上からの報告が多く全体の約75%を占め、男女別でも男性の報告数が女性よりやや多く報告された。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



#### ② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



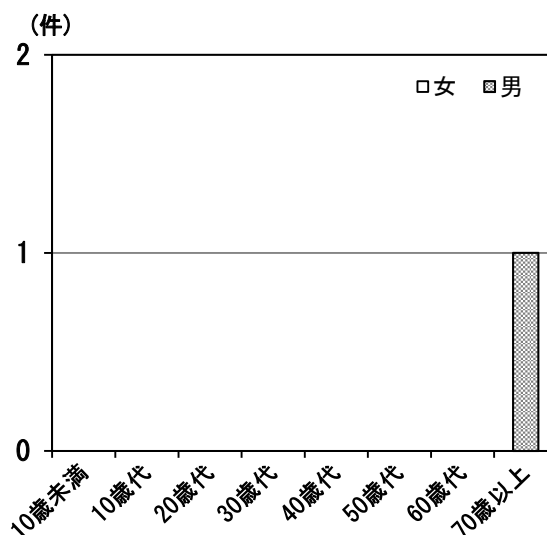
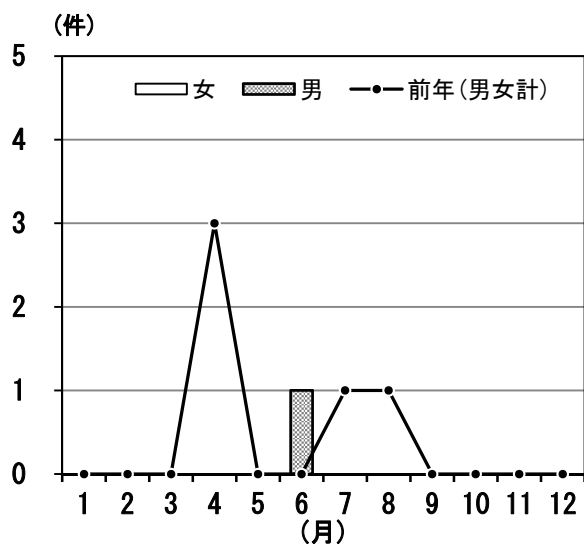
年間報告数は14件（男性8件、女性6件）と、前年（27件）から減少した。過去5年間では、毎年10～30件で推移している。

年齢別でも例年同様に、10歳未満（約79%）からの報告が大半を占めた。

### ③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は1件（男性、70歳以上）であった。毎年、ほぼ10件以内の届出数で推移している。

薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



### ④ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

平成23年2月から新たに追加された疾患であるが、報告は無かった。平成26年9月19日より五類全数把握疾患に追加された。